

横查情報月報



横浜市衛生研究所

平成26年9月号 目次

【トピックス】

横浜市区別標準化死亡率(SMR)	1
------------------------	---

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査委員会報告 平成26年8月	3
------------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	7
---------------------	---

横浜市区別標準化死亡比(SMR)

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率(粗死亡率)を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比(Standardized mortality ratio : SMR)があります。標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率をもとに当該地域の人口から算出される期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

衛生研究所では、代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページ(<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>)に掲載しており、今回、昨年度公表された平成24年の人口動態から得られた数値を元にデータを更新しましたのでご紹介します。なお、表の中の数字は、それぞれの疾患における全国の死亡率を1.00としたときの比で、1.00よりも大きいときは全国よりも標準化された死亡率が高いことを意味します。

※全国と比べて、統計学的に有意(p<0.05)に標準化死亡比が高い値を**太字斜体下線引き**としました。

表1 横浜市区別標準化死亡比(男性・抜粋)

区名	全死因	結核	悪性 新生物	急性心筋 梗塞	心不全	脳血管 疾患	大動脈瘤 及び解離	肝疾患	自殺
横浜市	0.957	<u>1.203</u>	1.005	<u>1.235</u>	<u>1.240</u>	0.901	<u>1.087</u>	<u>1.397</u>	0.845
鶴見	<u>1.124</u>	1.182	<u>1.160</u>	<u>1.608</u>	<u>1.215</u>	<u>1.177</u>	<u>1.310</u>	<u>2.012</u>	0.823
神奈川	1.012	1.279	<u>1.059</u>	<u>1.182</u>	<u>1.206</u>	0.927	1.228	<u>1.446</u>	0.812
西	<u>1.057</u>	1.065	1.014	<u>1.516</u>	<u>1.341</u>	1.034	1.037	<u>1.774</u>	0.781
中	<u>1.352</u>	<u>3.605</u>	<u>1.168</u>	<u>2.395</u>	<u>1.265</u>	<u>1.507</u>	1.076	<u>5.476</u>	<u>1.432</u>
南	<u>1.153</u>	1.313	<u>1.189</u>	<u>1.527</u>	<u>1.509</u>	<u>1.163</u>	1.185	<u>2.130</u>	1.100
港南	0.907	1.330	0.988	0.984	<u>1.326</u>	0.795	1.053	1.040	0.751
保土ヶ谷	0.977	1.370	1.041	1.069	<u>1.309</u>	0.939	1.219	1.063	0.830
旭	0.925	0.824	0.969	<u>1.257</u>	<u>1.133</u>	0.803	1.018	<u>1.371</u>	0.866
磯子	0.974	0.969	1.026	<u>1.654</u>	0.895	0.976	1.047	<u>1.558</u>	0.851
金沢	0.880	0.970	0.972	0.665	<u>1.531</u>	0.795	0.925	0.789	0.748
港北	0.899	1.116	0.964	<u>1.297</u>	1.075	0.785	1.116	1.046	0.839
緑	0.895	0.977	0.957	1.140	<u>1.192</u>	0.842	0.909	1.055	0.822
青葉	0.766	1.080	0.872	0.812	<u>1.223</u>	0.644	<u>1.217</u>	0.568	0.715
都筑	0.786	1.225	0.851	1.015	<u>1.234</u>	0.645	1.023	0.696	0.722
戸塚	0.888	0.857	0.965	<u>1.251</u>	1.040	0.858	0.924	0.984	0.792
栄	0.839	1.309	0.900	1.014	0.977	0.806	1.025	0.772	0.884
泉	0.898	0.909	0.942	0.968	<u>1.570</u>	0.827	1.065	1.017	0.800
瀬谷	0.995	0.907	1.006	1.188	<u>1.454</u>	0.860	1.042	1.272	0.834

表2 横浜市区別標準化死亡比(女性・抜粋)

区名	全死因	結核	悪性 新生物	急性心筋 梗塞	心不全	脳血管 疾患	大動脈瘤 及び解離	肝疾患	自殺
横浜市	0.983	1.164	<u>1.029</u>	<u>1.160</u>	<u>1.085</u>	0.952	<u>1.152</u>	<u>1.115</u>	0.979
鶴見	<u>1.158</u>	1.143	<u>1.176</u>	<u>1.488</u>	<u>1.143</u>	<u>1.263</u>	1.121	<u>1.360</u>	0.989
神奈川	1.009	1.354	1.040	<u>1.261</u>	<u>1.107</u>	1.012	1.175	1.020	0.936
西	<u>1.117</u>	1.117	<u>1.109</u>	<u>1.468</u>	1.095	1.101	<u>1.773</u>	1.213	1.002
中	<u>1.167</u>	1.864	<u>1.280</u>	<u>1.456</u>	1.019	1.083	1.109	1.235	1.177
南	<u>1.145</u>	1.369	<u>1.164</u>	<u>1.524</u>	<u>1.148</u>	<u>1.239</u>	<u>1.361</u>	1.267	1.025
港南	0.965	0.451	0.975	1.035	1.078	0.909	1.114	<u>1.316</u>	0.977
保土ヶ谷	1.002	0.975	1.043	1.072	1.037	1.009	<u>1.398</u>	1.096	1.004
旭	0.957	0.731	1.006	<u>1.236</u>	1.017	0.910	<u>1.214</u>	0.962	1.011
磯子	0.980	1.332	0.988	<u>1.498</u>	0.972	1.051	1.143	0.920	1.000
金沢	0.969	1.444	1.008	0.568	<u>1.386</u>	0.837	1.046	1.123	0.961
港北	0.927	1.185	1.030	1.089	0.909	0.871	1.117	1.048	0.918
緑	0.872	1.131	0.953	1.079	1.023	0.808	1.184	1.158	0.943
青葉	0.813	1.322	0.924	0.669	1.001	0.699	1.065	1.044	1.026
都筑	0.859	1.162	0.944	0.952	0.999	0.777	0.825	0.972	1.008
戸塚	0.959	1.097	0.980	<u>1.412</u>	<u>1.103</u>	0.949	1.111	1.115	0.814
栄	0.911	1.226	0.938	1.112	0.782	0.877	1.130	1.151	1.011
泉	0.935	1.305	0.940	1.016	<u>1.252</u>	0.883	0.882	1.094	0.849
瀬谷	<u>1.046</u>	1.124	<u>1.087</u>	1.092	<u>1.492</u>	0.909	1.061	1.018	1.155

SMR算出法：ベイズ推計法

観察期間：平成20～24年

全国の性・年齢別・死因別の死亡数：平成20～24年の平均値を使用

横浜市および当該区の男女別・死因別死亡数：平成20～24年の平均値を使用

全国の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年10月1日現在)を使用

横浜市および当該区の性・年齢別人口：H22国勢調査人口、推計人口(各年1月1日現在)を使用

横浜市全体では、男性では肝疾患、心不全、急性心筋梗塞、結核、大動脈瘤及び解離、女性では急性心筋梗塞、大動脈瘤及び解離、肝疾患、心不全、悪性新生物の死亡比が全国より有意に高くなっていました。区別で見ると、特に中区の男性では多くの疾患で全国よりも高い死亡比を示しており、その中でも肝疾患は全国の約5.5倍、結核は約3.6倍、急性心筋梗塞は約2.4倍高くなっていました。

標準化死亡比は区や性別によって特徴があり、各区における健康施策立案に際して非常に参考になると考えられますが、さらにより具体的な施策立案に際しては、各疾患の要因や発生地域、区民の生活習慣などの詳細な分析が必要です。

なお、下記ホームページ「保健統計データ集」の「標準化死亡比」のページには、今回掲載できなかった他の疾患や、年ごとの標準化死亡比も掲載していますのでご参照ください。

◆衛生研究所保健統計データ集：

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/katsuyo/data.html>

【 感染症・疫学情報課 】

感染症発生動向調査委員会報告 8月

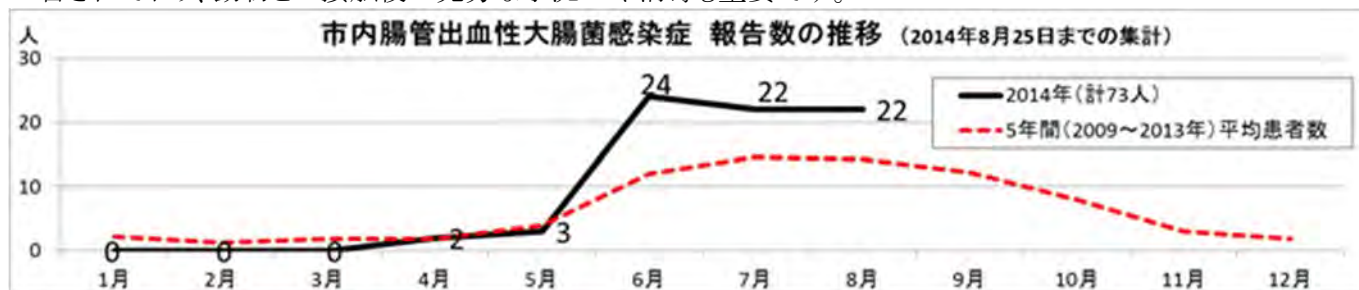
《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が多い状況が継続しています。

全数把握疾患 8月期に報告された全数把握疾患

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
腸管出血性大腸菌感染症	22件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
マラリア	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
レジオネラ症	5件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
アメーバ赤痢	2件	破傷風	2件
ウイルス性肝炎	1件		

＜細菌性赤痢＞ *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(エジプト)での感染が推定されています。
 ＜腸管出血性大腸菌感染症＞計22件(O157VT1VT2 14件、O157H7VT1VT2 1件、O157VT2 3件、O157VT不明 1件、O121VT2 2件、O112VT1 1件)の報告がありました。焼肉店での喫食を原因とするものや、家族内での2次感染によるもの等が報告されています。今年の報告数は、6月から過去5年間の平均を上回る状態が続いています。9月にかけても例年報告が多いため、肉は十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)し、食品はよく洗い新鮮な材料を使うなど予防対策が重要です。家庭内での2次感染予防では、手洗いをしっかりと行い、下痢症状がある人は専用のタオルを使用し、トイレは常に清潔に掃除して、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにするのが大切です。全国的には毎年保育施設における集団発生が多くみられており、オムツ交換時の手洗い、園児に対する排便後・食事前の手洗い指導の徹底が重要です。また、簡易プールなどの衛生管理にも注意を払う必要があります。さらに、過去には動物とのふれあい体験での感染と推定される事例も報告されており、動物との接触後の十分な手洗いや消毒も重要です。



＜マラリア＞三日熱マラリアの報告が1件あり、渡航先(インド)での感染が推定されています。
 ＜レジオネラ症＞肺炎型5件の報告がありました。現在感染経路等調査中です。
 ＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は日本での感染が推定されていますが感染経路等不明、もう1件は感染経路感染地域等不明でした。
 ＜ウイルス性肝炎＞1件のB型肝炎の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
 ＜急性脳炎＞40歳代の報告が1件ありました。病原体検索中です。
 ＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞30歳代の報告が1件あり、血清型はA群(国内の統計では、本症の起原菌はA群が最も多く報告されています。)です。創傷感染が推定されています。
 ＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞1件の古典型CJDの報告があり、診断の確実度はほぼ確実です。
 ＜後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)＞無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での同性間性的接触による感染でした。
 ＜破傷風＞2件の報告がありました。1件は90歳代で転倒による外傷からの感染が推定されています。もう1件は70歳代で感染経路等不明です。

定点把握疾患 平成26年7月28日から平成26年8月24日まで
 (平成26年第31週から平成26年第34週まで。ただし、性感染症については平成26年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成26年 週一月日対照表

第31週	7月28日～8月3日
第32週	8月4日～8月10日
第33週	8月11日～8月17日
第34週	8月18日～8月24日

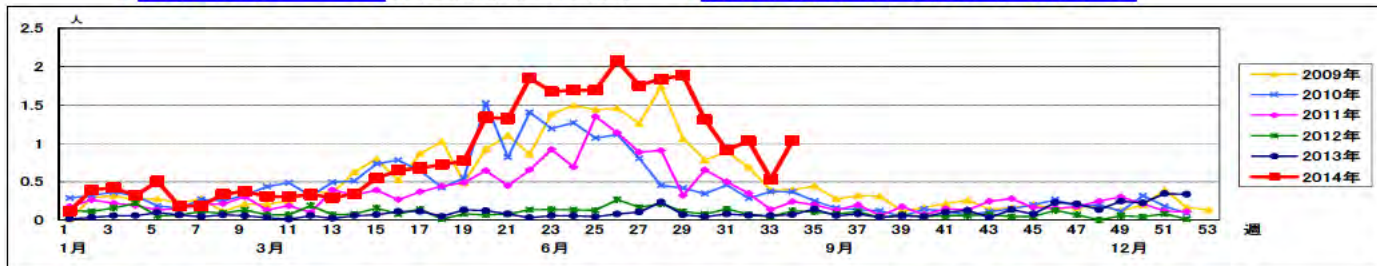
1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か

所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

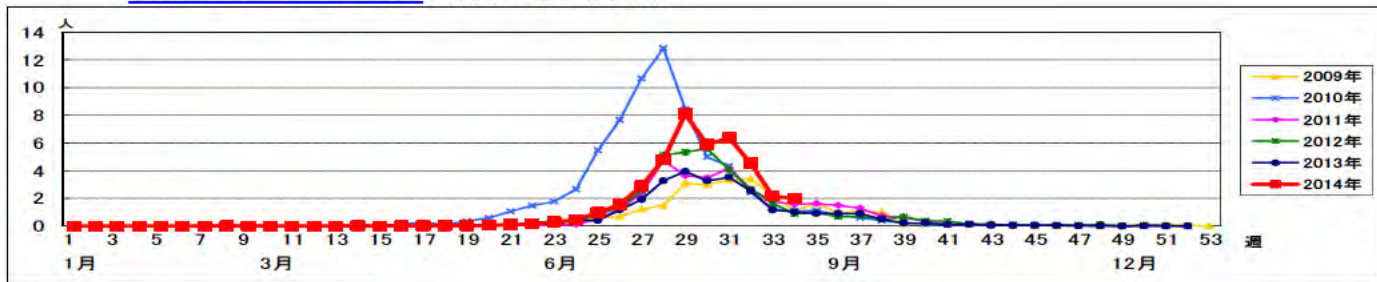
<伝染性紅斑>第34週は市全体で定点あたり1.04と、第33週0.54からやや増加しましたが、全体的には流行のピークは過ぎつつあります。しかし、緑区2.80など、報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。

◆[伝染性紅斑について\(国立感染症研究所\)](#) ◆[横浜市感染症臨時情報:伝染性紅斑](#)

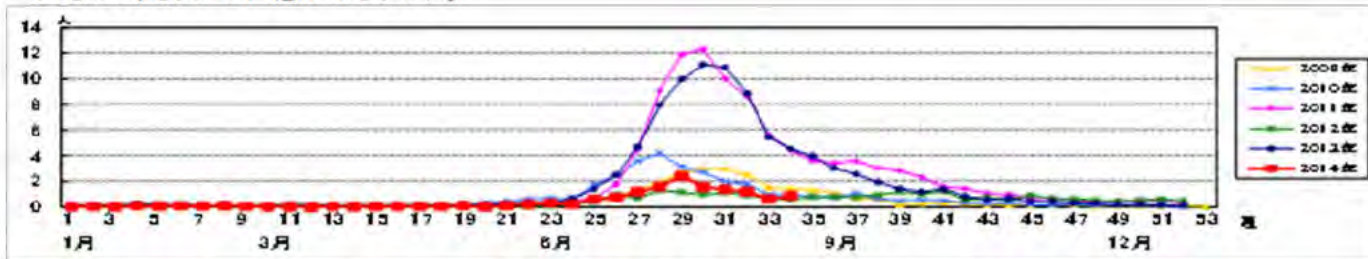


<ヘルパンギーナ>第34週は市全体で定点あたり1.99となり、流行のピークは過ぎつつあります。しかし、神奈川区4.00などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。感染予防では、患者との密接な接触を避け、流行時にうがいや手洗いをしっかりと行うことが重要です。特に患児のおむつを替えた後などは、よく手を洗いましょう。

◆[ヘルパンギーナについて\(横浜市衛生研究所\)](#)



<手足口病>第34週は市全体で定点あたり0.89となっています。区別では、港南区3.25などと報告の多い区もあり、もう少し注意が必要です。



<性感染症>7月は、性器クラミジア感染症は男性が29件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が7件、女性が9件でした。尖圭コンジローマは男性4件、女性が1件でした。淋菌感染症は男性が17件、女性が0件でした。

<基幹定点週報>マイコプラズマ肺炎は第31週1.00、第32週0.33、第33週0.67、第34週1.00と報告が多くなっています。週当たりの報告が1.00以上となるのは2013年第52週以来です。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、クラミジア肺炎、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症3件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告はありませんでした。

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点27件、基幹定点10件、定点外医療機関22件でした。

9月9日現在、ウイルス分離10株と各種ウイルス遺伝子44件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 または診断名 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS感染症	咽頭結膜熱 (アデノ感染症含む)	胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性角結膜炎	発熱のみ	耳下腺炎	血球貧血症候群	その他
アデノ NT	1	1												1
アデノ 2型	1													
パラインフルエンザ 1型												1		
パラインフルエンザ 2型		1												
パラインフルエンザ 3型	1	3		2										
RS	1	1		13										
ヒューマンメタニューモ		1												
ライノ	1													1
コクサッキー A 2型	1													
コクサッキー A 4型	1							2						
コクサッキー A 9型		1				1			1					
コクサッキー A10型	2						1	1						
コクサッキー A16型							3							
エコー 11型						1			1					
パレコ NT						1							1	2
パレコ 1型						1								
パレコ 3型						1								2
合計	0 9	2 6	0 0	0 15	0 0	2 3	3 1	0 3	0 2	0 0	0 0	0 1	0 1	3 3

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からではなく、基幹定点から7件、その他が24件で、赤痢菌 (*Shigella sonnei* I相)、腸管出血性大腸菌 (O157:H7、O157:H-、O121:H19、O112ac:HUT、O26:H11)、腸管毒素原性大腸菌 (O25:H-、O169:HUT)、腸管凝集性大腸菌 (O15:H34)、サルモネラ (*S. Agona*、*S. Enteritidis*)、*Campylobacter jejuni* が検出されました。赤痢菌 (*Shigella sonnei* I相)はインドへの渡航者から、腸管毒素原性大腸菌 (O25:H-)はカンボジア、ベトナム、エジプトへの渡航者から、それぞれ検出されました。その他の感染症は小児科からではなく、基幹定点から4件、その他が8件でした。A群溶血性レンサ球菌 (T9)は劇症型溶菌感染症でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎								
検査年月		8月			2014年1月～8月			
定点の別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
件数		0	7	24	3	71	87	
菌種名								
赤痢菌			1			1	1	
腸管病原性大腸菌						1		
腸管出血性大腸菌				20		1	61	
腸管毒素原性大腸菌			1			3		
腸管凝集性大腸菌			1			1		
サルモネラ				3		25	7	
カンピロバクター				1	1		2	
NAGビブリオ							1	
不検出		0	4	0	2	39	15	
その他の感染症								
検査年月		8月			2014年1月～8月			
定点の別		小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*	
件数		0	4	8	30	27	141	
菌種名								
A群溶血性レンサ球菌		T1			2		2	
		T4			6			
		T6			6			
		T9		1			1	
		T11			1			
		T12			6			
		T B3264			2			
		型別不能			3		1	
B群溶血性レンサ球菌							17	
D群溶血性レンサ球菌							2	
G群溶血性レンサ球菌							3	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			3			15	1	
<i>Legionella pneumophila</i>							6	
インフルエンザ菌				1			6	
肺炎球菌					1		63	
<i>Neisseria meningitidis</i>							1	
結核菌							4	
百日咳						1		
その他			1			10	3	
不検出		0	0	6	3	1	31	

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成26年8月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (平成26年8月)

平成26年8月の総アクセス数は、123,803件でした。主な内訳は、感染症情報センター65.8%、食品衛生5.1%、保健情報8.1%、検査情報月報5.1%、生活環境衛生3.4%、薬事0.8%でした。

(2) アクセス順位 (平成26年8月)

8月のアクセス順位(表1)は、第1位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」、第2位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」、第3位が「サイトメガロウイルス感染症について」でした。

8月の総アクセス数は、前月に比べ18%ほど減少しました。今月の1位から3位は、先月と同様のタイトルが入りました。1位の「クロストリジウム-

ディフィシル感染症」は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。2位の「B群レンサ球菌(GBS)感染症」は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。また、4位に「 Dengue熱・ Dengue出血熱について」が入りました。 Dengue熱に関しては、報道されている通り、国内での発生が増加しています。 Dengue熱は蚊の媒介により感染が広がるため、蚊に刺されないように注意する必要があります。

表1 平成26年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	5,344
2	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	4,059
3	サイトメガロウイルス感染症について	2,781
4	Dengue熱・ Dengue出血熱について	2,716
5	EBウイルスと伝染性単核症について	2,651
6	衛生研究所トップページ	2,565
7	調査研究・試験検査機関のあり方に関する報告書	2,239
8	ぎょう虫(蟯虫)症について	2,207
9	エンテロウイルスについて	1,861
10	リステリア症について	1,801

データ提供: 市民局広報課

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

「サイトメガロウイルス感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/cytomegalol1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ（平成26年8月）

平成26年8月の問い合わせは、0件でした。

2 追加・更新記事（平成26年8月）

平成26年8月に追加・更新した主な記事は、12件でした(表2)。

表2 平成26年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 1日	ケニアのこどもの定期予防接種について	掲載
8月 1日	平成26年 熱中症情報	掲載
8月 4日	感染症に気をつけよう(8月号)	掲載
8月 6日	平成26年 熱中症情報	掲載
8月 8日	タンザニアのこどもの定期予防接種について	掲載
8月13日	平成26年 熱中症情報	掲載
8月13日	マラウイのこどもの定期予防接種について	掲載
8月14日	エボラ出血熱(Ebola hemorrhagic fever)について	掲載
8月15日	モザンビークのこどもの定期予防接種について	掲載
8月22日	平成26年 熱中症情報	掲載
8月26日	ガーナのこどもの定期予防接種について	掲載
8月28日	シエラレオネのこどもの定期予防接種について	掲載

【感染症・疫学情報課】